

学校評価

結果と分析

R6年度

1. 評価結果の概要
2. 職員・保護者間の認識差
3. 自由記述に基づく課題
4. 保護者からの要望のまとめ
5. 検討せずすぐに改善できる、または改善すべき内容を整理
6. 各課題に関する本校の現状と方向性
7. 校長によるR7経営構想

1. 評価結果の概要

保護者の評価は全体的に高い

保護者

3.77 / 4

職員

3.07 / 4

※ 4段階評価

高評価項目

1. 高評価項目 TOP5

○いじめ防止、適切な指導・支援

○個別の指導計画の活用と確かな学力等の育成

○学級費等の適切な説明報告

○分かる授業づくり

○食育、食事の適切な指導

1. 高評価項目 TOP5

○個別の指導計画の活用と確かな学力等の育成【3.79】

○いじめ防止、適切な指導・支援【3.79】

○学級費などの適切な説明【3.76】

○分かる授業づくり【3.76】

○食育、食事の適切な指導【3.76】

番号	カテゴリー	評価項目	職員 R 6	保護者 R 6
3	個別の教育支援計画・個別の指導計画	学校は、「個別の指導計画」を活用し、確かな学力等を育む授業を展開している。	2.92	3.79
12(学) (保)	いじめ・体罰	学校は、いじめ防止の方針を共有し、児童生徒に対して適切な指導や支援を行っている。 学校は、いじめ防止の方針を理解し、児童生徒に対して適切な指導や支援を行っている。	3.23	3.79
18(保)	服務	学校は、学級費等について適切に説明報告をしている。		3.76
30(保)	教育課程	学校は、学習内容や指導方法の工夫や改善を行い、児童生徒がわかる授業づくりに努めている。		3.76
31	教育課程	学校は、食育・食事の指導を適切に実施し、効果を上げている。	2.87	3.76

1. 高評価項目 TOP5

○いじめ防止と適切な指導

○安全点検の適切な実施

○学校行事の適切な実施

○危機管理マニュアルの整備と緊急時の対応

○日常生活の指導・余暇活動の適切な実施

1. 高評価項目 TOP5

○安全点検の適切な実施【3.25】

○いじめ防止と適切な指導【3.23】

○学校行事の適切な実施【3.23】

○危機管理マニュアルの整備と緊急時の対応【3.18】

○日常生活の指導・余暇活動の適切な実施【3.16】

番号	カテゴリー	評価項目	職員 R 6	保護者 R 6
12(学) (保)	いじめ ・体罰	学校は、いじめ防止の方針を共有し、児童生徒に対して適切な指導や支援を行っている。 学校は、いじめ防止の方針を理解し、児童生徒に対して適切な指導や支援を行っている。	3.23	3.79
15(学) (保)	危機管理	学校は、所属部門における安全点検を適切に実施している。 学校は、安全管理が十分に行われている。	3.25	3.48
16	危機管理	学校は、危機管理マニュアルの整備等、緊急時へ対応について準備を整えている。	3.18	3.58
22(学) (保)	教育課程	学校は、学校行事を適切に計画・実施している。 学校行事を適切に計画・実施している。	3.23	3.73
28(学)	教育課程	学校は、日常生活の指導・余暇活動を適切に実施し、効果を上げている。	3.16	

低評価項目

低評価項目(2点台)は特にありませんでした。

3. 本校の課題(評価が2点台)

☑食育・食事の適切な指導(2.87)

☑業務の効率化・時間外勤務縮減(2.89)

☑「個別の指導計画」活用と授業(2.92)

☑キャリア・学びの連続性(2.97)

☑教科別指導の適切な実施(2.97)

番号	カテゴリー	評価項目	職員R 6	保護者R 6
3	個別の教育支援計画・個別の指導計画	学校は、「個別の指導計画」を活用し、確かな学力等を育む授業を展開している。	2.92	3.79
21(学)	服務	学校は、効率よく業務にあたり、時間外勤務縮減に取り組んでいる。	2.89	
25(学)	教育課程	学校は、教科別指導を適切に実施し、効果を上げている。	2.97	
29(学)	教育課程	学校は、一人一人の社会的・職業的自立に向け、キャリアの視点を持ち、小中高学びの連続性を意識して指導している。	2.97	
31	教育課程	学校は、食育・食事の指導を適切に実施し、効果を上げている。	2.87	3.76

主要課題の比較

R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
関係機関との連携・進路指導	地域への情報提供・発信	業務の効率化・時間外勤務縮減	食育・食事の適切な指導
教科別指導の適切な指導・効果	業務の効率化・時間外勤務縮減	食育・食事の適切な指導	業務の効率化・時間外勤務縮減
合わせた指導の適切な指導・効果	キャリア・学びの連続性		「個別の指導計画」活用と授業
地域への情報提供・発信	食育・食事の適切な指導		キャリア・学びの連続性
研修等による専門性の向上			教科別指導の適切な実施
業務の効率化・時間外勤務縮減			

2. 職員と保護者の評価差

2. 職員と保護者の評価差 TOP3

①食育・食事の適切な指導【評価差: 0.89】

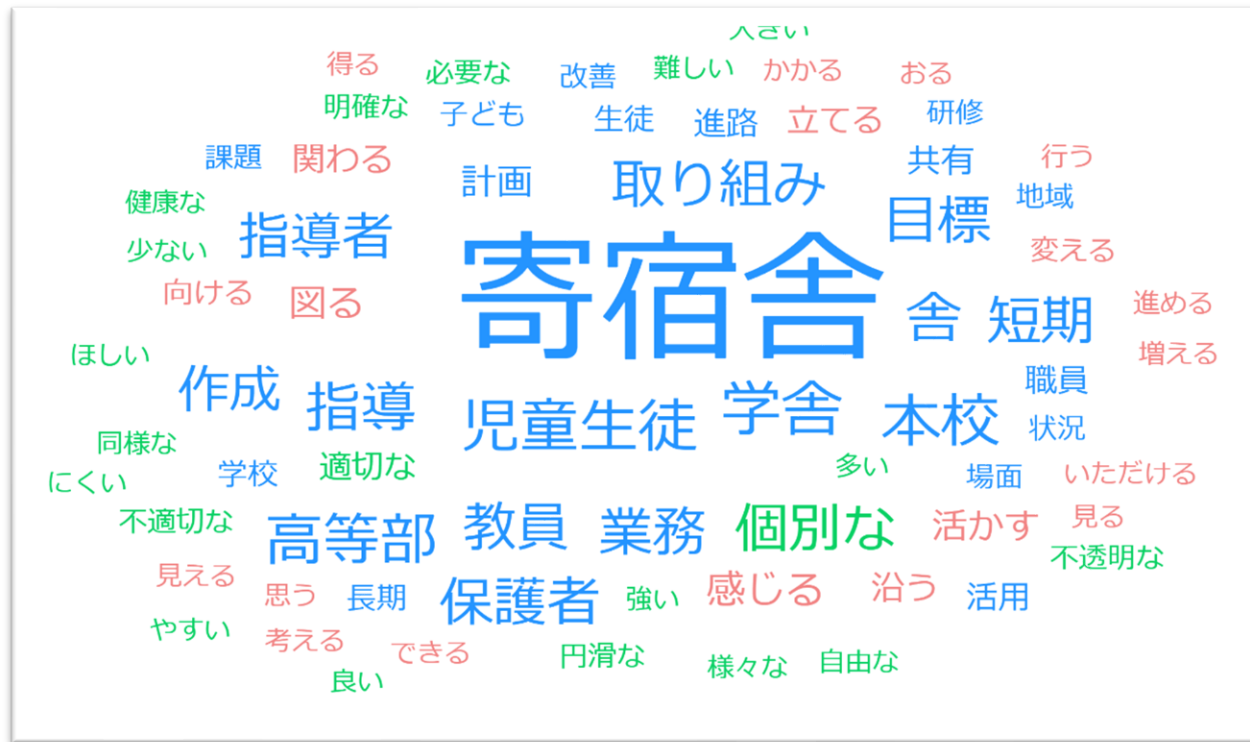
②個別の教育支援計画の作成と活用【評価差: 0.87】

③個別の指導計画の活用と確かな学力等の育成【評価差: 0.73】

番号	カテゴリ	評価項目	職員R 6	保護者R 6
2	個別の教育支援計画・個別の指導計画	学校は、一人一人の教育的ニーズに応じ保護者と共通理解し、「個別の教育支援計画」を作成し活用している。	3.00	3.73
3	個別の教育支援計画・個別の指導計画	学校は、「個別の指導計画」を活用し、確かな学力等を育む授業を展開している。	2.92	3.79
31	教育課程	学校は、食育・食事の指導を適切に実施し、効果を上げている。	2.87	3.76

3.自由記述に基づく課題

自由記述に基づく課題



1. 個別の教育支援計画・個別の指導計画の改善
2. 教職員間の連携と職場環境の改善
3. 業務効率化・時間外勤務削減
4. キャリア教育の改善
5. いじめ防止と指導体制の強化
6. 食育・食事指導
7. 教育環境の改善

4. 保護者からの要望まとめ

1. 学校行事の運営に関する要望：運動会の日程調整

要望内容:

運動会の日程が他校と重複し、保護者が対応に苦慮している状況を改善してほしい。

背景:

他校の行事と重なることで、家庭内での優先順位の調整が困難になっている。

2. 給食に関する要望：給食だよりの配付タイミング

要望内容:

給食だよりの配付を早めてほしい。

背景:

配付が遅れることで、家庭での食事計画やアレルギー対応が
しづらくなる？※理由は未確認

2. 給食に関する要望：給食費の無償化

要望内容:

給食費を無償化してほしい。

背景:

保護者負担軽減への期待がある。

2. 校内環境に関する要望：寄宿舍のスリッパ修繕

要望内容:

寄宿舍で使用しているスリッパの破損状態を改善してほしい。

背景:

日常的に使用する備品の不備が保護者から指摘されている。

3. 校内環境に関する要望：プールの復活

要望内容:

利用できないプールを再開してほしい。

背景:

子どもの体力向上やリハビリ活動への活用が期待されている。

4. 安全管理に関する要望：危機管理マニュアルの具体化と共有

要望内容:

不審者対応や緊急時の対応策を、保護者にも具体的に共有してほしい。

背景:

保護者が緊急対応の内容を十分に把握できておらず、不安を抱いている。

4. 安全管理に関する要望：寄宿舍の防犯対策

要望内容:

寄宿舍の出入り管理や鍵掛けのルールを明確にしてほしい。

背景:

防犯対策の曖昧さが保護者に不安を与えている。

5. 教職員採用に関する要望：教職員の適切な採用

要望内容:

障害児教育に熱意を持った教職員を採用してほしい。

背景:

子どもに寄り添った教育を求める保護者の声がある。

5. 検討せずにすぐに改善できる、
または改善すべき内容

検討せずにすぐに改善できる、または改善すべき内容

- ☑給食関連(給食だより配付の前倒し・献立の工夫・アレルギー対応の徹底)
- ☑校内環境の改善(スリッパ修繕・温度管理改善・自立活動室の環境整備)
- ☑情報共有(危機管理マニュアルの共有)
- ☑保護者対応(保護者意見への迅速な返答)
- ☑生徒指導(不適切な言葉遣いや指導の改善:児童生徒を呼び捨てやあだ名で呼ぶこと。児童生徒に対して厳しすぎると思われる指導。)

6. 各課題に関する本校の現状と方向性

1. 個別の教育支援計画・個別の指導計画の改善

1.個別の教育支援計画・個別の指導計画の改善

課題

- 学校・寄宿舍・保護者間での情報共有不足。
- 計画作成が目的化し、指導実践とのつながりが弱い。
- 作成プロセスが非効率で、長期目標・短期目標の締切が曖昧。

校内の考え

- 教務部と寄宿舍研究部が連携して、個別の教育支援計画および指導計画の運営ルールを再検討する。
- 教務部、研究部で協働し、実践につながる様式や手順を見直し、Sスケールや自立活動課題関連図の活用法も含めた新たなフォーマットを提案する。

担当部署

- 教務部、研究部、寄宿舍研究部

2. 教職員間の連携と職場環境の改善

2. 教職員間の連携と職場環境の改善

課題

- ❑ 暗黙の了解に頼るコミュニケーションが多く、業務負担が偏り、特に非協力的な態度や強い指摘が生じやすい。
- ❑ メンタルヘルスの問題もあり、心の余裕が不足しているため、協力体制が希薄になっている。

校内の考え

- 管理職がリーダーシップを発揮し、職員間のネガティブな言動を減らすとともに、日常的な交流の機会を増やす。
- 職員同士が得意なことや好きなことを積極的に共有し、互いにフォローできる環境を作る。

担当部署

- 総務部、各学部、寄宿舍、管理職

3. 業務効率化・時間外勤務削減

3. 業務効率化・時間外勤務削減

課題

- ❑ 業務リストが不十分なため、優先順位が不明確。
- ❑ 不要な業務の重複や作業手順の非効率が目立つ。
- ❑ ICT活用が遅れており、PCスペックの不足も指摘される。
- ❑ 業務の引き継ぎが不十分で、同じ作業を毎回再度行う状況。

校内の考え

- 業務を「リスト化」して分類し、重要度・緊急度に基づいて削減・効率化する。
- ICTツールを活用し、クラウド型の共有ツールや自動化ツールを積極導入する。
- 組織としての意識（個人業務ではなく、チームで取り組む）を醸成する。

担当部署

- 総務部、情報教育部、各学部、寄宿舍

4. キャリア教育の改善

4. キャリア教育の改善

課題

- ❑ 卒業後の進路支援（特に日中先、夜間先）の調整が十分でない。
- ❑ キャリア教育全体計画が5年前のままで、現状に合致していない。
- ❑ 教務部から今年度の新たな提案がなく、組織的な取り組みが停滞している。

校内の考え

- キャリア教育を学校全体で再構築するため、教務部から明確な方針を示す必要がある。
- 予算が限られる場合は、オンライン（Zoom）見学やリモート相談を活用する。

担当部署

- 教務部、支援部（進路）

5. いじめ防止と指導体制の強化

5. いじめ防止と指導体制の強化

課題

- ❑ 現行のいじめ対応マニュアルが現状に即しておらず、迅速な対応が難しい。
- ❑ 教職員による指導方法にばらつきがあり、強すぎる指導が生徒や職員間に悪影響を与えている。
- ❑ 生徒からのいじめに関する信頼が損なわれるリスクがある。
- ❑ 初任者や若手教員の指導スキルが不足している。

校内の考え

- マニュアルの見直しと、定期的な事例共有を通じて、迅速かつ適切な対応力を強化する。
- 外部講師を招いた専門研修や、アンガーマネジメント、コーチングの研修を実施し、指導者間の共通基準を確立する。
- いじめ対策委員会で、事実認定のプロセスと対応結果を透明化する。

担当部署

- いじめ対策委員会、各学部、寄宿舍

6. 食育・食事指導

6. 食育・食事指導

課題

- ❑ 給食だよりの配布タイミングが原則前月の最終金曜日だが、月代わりが月曜日の場合は調整が必要。
- ❑ アレルギー対応メニュー表の配布順が不明確で、担任に届かない場合のチェック体制が不十分。
- ❑ 季節の食材を活かした郷土料理メニューや、生徒アンケートに基づく人気メニューの実施が不足。
- ❑ おかずやデザートを選択肢を提供するセレクト給食の実施も検討中。

アイデア例

- 配布スケジュールの柔軟性を高め、必要に応じた前倒しを実施する。
- 配布順を「厨房⇒寄宿舍⇒担任」とし、チェック体制を強化する。
- 季節感や地域性を反映したメニュー作成、セレクト給食の試行を通じて、食育の充実を図る。

担当部署

- 学校保健給食委員会

7. 教育環境の改善

7. 教育環境の改善

課題

- ❑ 施設の老朽化や設備の不足により、学習環境が十分に整備されていない。
- ❑ 修繕願の提出は行われているが、進行管理が必要。
- ❑ 寄宿舍における扇風機不足、遮光カーテンなどの室温対策が求められる。
- ❑ 不要備品の再利用（例：学校のスリッパ）について、計画が不十分。

校内の考え

- 修繕願提出後、迅速な対応と進捗管理を行い、現状の問題に即時対応する。
- 大規模改修に向けた事前準備を進めながら、短期的な修繕・設備の改善を図る。
- 使用可能な備品の再利用と、室温対策を検討する。

担当部署

- 危機管理委員会、生活安全部、寄宿舍庶務部

7. 校長によるR7経営構想

課題に対する優先順位付け（スコア方式・カテゴリ分類）

課題・改善策の名称	緊急性 (1～5)	重要性 (1～5)	実現可能性 (1～5)	学校全体への影響 (1～5)	合計スコア	カテゴリ分類							
(給食) アレルギー対応	5	5	5	3	18	A	年度内改善	スコア付け方式:					
(給食) 保護者との連携	5	5	5	3	18	A	年度内改善	各観点に対して1～5点のスコアを付与（例: 緊急性が高い場合は5点）					
(給食) 食育、献立の多様化	4	4	5	5	18	B	年度内検討→次年度実施改善	合計点が高い順に優先順位を決定。					
(舎) スリッパ	4	3	5	2	14	C	年度内改善						
(舎) 安全管理内容の視覚化	4	3	5	2	14	C	年度内改善	各観点の意味:					
(舎) 健康衛生面への配慮	4	3	5	2	14	C	年度内検討・実施	緊急性: 迅速に対応が必要な課題かどうか。					
(舎) 老朽化した施設設備の整理	3	3	3	3	12	B	年度内確認・検討→次年度	重要性: 学校の目標や方針にどれだけ関係が深いか。					
課題・改善策の名称	緊急性 (1～5)	重要性 (1～5)	実現可能性 (1～5)	学校全体への影響 (1～5)	合計スコア	カテゴリ分類		実現可能性: 現在のリソースや予算で対応可能か。					
(舎) いじめ対応マニュアル改定等	4	3	5	3	15	B	年度内検討→次年度	学校全体への影響: 解決することでどれだけ広範囲に影響が及ぶか。					
(特委) いじめ防止と指導体制等	4	3	5	3	15	B	年度内検討→次年度						
(学部) いじめ対応（生徒指導の充実等）	4	3	5	3	15	B	年度内検討→次年度	カテゴリ分類					
課題・改善策の名称	緊急性 (1～5)	重要性 (1～5)	実現可能性 (1～5)	学校全体への影響 (1～5)	合計スコア	カテゴリ分類		スコア方式だけでは見えにくい課題の性質を考慮					
(舎) 業務の可視化と改善	4	4	4	4	16	A～B	年度内評価・検討→次年度	改善案を次の4つのカテゴリに分類します:					
(舎) 教職員の連携と職場環境の改善	4	4	4	4	16	A～B	年度内評価・検討→次年度	A: 緊急かつ重要 → 最優先で即実行（例: 安全確保、法律遵守）。					
(学部) 業務の可視化と改善	4	4	4	4	16	A～B	年度内評価・検討→次年度	B: 重要だが緊急でない → 計画的に進める（例: 長期的な教育改善プログラム）。					
(学部) 教職員の連携と職場環境の改善	4	4	4	4	16	A～B	年度内評価・検討→次年度	C: 緊急だが重要でない → 短期間で解決を目指す（例: 備品修繕）。					
(学部) 業務効率化等	4	4	4	4	16	A～B	年度内評価・検討→次年度	D: 緊急でも重要でもない → 後回しにする（例: 装飾や美化活動）。					
(分掌) *学部と共有	4	4	4	4	16	A～B	年度内評価・検討→次年度						
課題・改善策の名称	緊急性 (1～5)	重要性 (1～5)	実現可能性 (1～5)	学校全体への影響 (1～5)	合計スコア	カテゴリ分類							
(舎) 進路（視察研修等）	3	3	3	3	12	C	年度内確認・検討→次年度						
(分掌) キャリア教育の推進	5	4	4	5	18	A	年度内評価・検討→着手						
課題・改善策の名称	緊急性 (1～5)	重要性 (1～5)	実現可能性 (1～5)	学校全体への影響 (1～5)	合計スコア	カテゴリ分類							
(共通) 個別の教育支援計画	4	5	4	5	18	B	年度内確認・検討→次年度						
(共通) 個別の指導計画	4	5	4	5	18	B	年度内確認・検討→次年度						

カリキュラムマネジメント推進スケジュール

新年度構想案

次のサイクル「10年間」を見通した学校

□(R7)学校教育目標の改定検討

□(R7)教育課程編成(キャリア、教科等横断的視点等)

■(R6～R7)学校組織再編、業務内容改善

【R6.12】R7経営ビジョン→【R7.1】R7人事指針→【反省評価】

【R7.2】経営方針→校内人事・組織マネジメント→R7体制へ

経営重点「学びを”楽しむ”教育活動の推進」(人材・組織・授業)

学校教育目標改定

【フットワーク】

□学びを「カタチ」にする

・学校教育目標と教育課程を磨き上げる

キャリア教育の充実

【ネットワーク】

□地域から「社会」に発信、貢献する

・一人ひとりの可能性を伸ばす新たな教育実践

連続性・系統性

授業改善

専門性の向上

【チームワーク】

□学び合い支え合う「組織」に深化する

・専門職としての資質能力を高める

NO	部署	学校課題項目	現状分析・評価	令和7年度	令和8年度	令和9年度
1	全	(給食) アレルギー対応	継続 60～80	→ 評価	計画 実施 → 評価	→
2	全	(給食) 保護者との連携	継続 60～80	→ 評価	計画 実施 → 評価	→
3	全	(給食) 食育、献立の多様化	継続 60～80	4月 → 評価	改善 実施 → 評価	→
4	舎	スリッパ準備	着手 ～20	→ 3月		
5	舎	安全管理内容の視覚化	着手 ～20	4月 → 評価		
6	舎	老朽化した施設設備の整理	継続 ～20	4月 → 評価		
7	舎	いじめ対応マニュアル改定等	継続 60～80	4月 → 評価	改善 → 評価 改善	→
8	委	いじめ防止と指導体制等	改善 60～80	4月 → 評価	改善 → 評価 改善	→
9	学	いじめ対応(生徒指導の充実等)	改善 ～40	4月 → 評価	改善 → 評価 改善	→
10	舎	業務の可視化と改善	改善 ～40	→ 2月 改善 計画 → 評価 改善		→
11	舎	教職員の連携と職場環境の改善	改善 ～40	→ 2月 改善 計画 → 継続 →		
12	学	業務の可視化と改善	継続 ～60	→ 2月 改善 計画 → 継続 →		→
13	学	教職員の連携と職場環境の改善	継続 ～60	→ 2月 改善 計画 → 継続 →		
14	学・分	業務効率化等	継続 ～40	→ 2月 改善 計画 → 継続 →		
15	舎	進路(視察研修等)	改善 ～40	→ 2月 改善 計画		
16	分	キャリア教育の推進	着手 ～20	4月 → 評価	計画 実施 → 評価	→
17	舎	個別の教育支援計画	改善 ～60	→ 2月 改善 計画	→ 年次継続	
18	分	個別の指導計画	改善 ～60	→ 2月 改善 計画	→ 年次継続	

〈理想とする学校づくりの実現〉
学びを“愉しむ”教育活動の推進
(人材・組織・授業)

「スクールアイデンティティ」
本校の存在意義や地域における役割とは？

子どもが社会への主体的な参画者となり、自己実現に向けて歩む姿を育むために、学校と学校を取り巻く全ての人々と何ができるか考えていきます。

“ワクワク”学校 日々是“アップデート”

【令和9年度以降】学習指導要領改訂に向けて

- 次のサイクル「10年間」を見通した学校
- 〈R7〉学校教育目標の改定検討
- 〈R7〉教育課程編成（キャリア、教科等横断的視点等）
- 〈R6～R7〉学校組織再編、業務内容改善

「先入観や思い込みを捨て、新たな知見を取り込み、成長するための余地を生む」
〈Key word〉 Unlearn

新学習指導要領の段階的实施

カリキュラム・マネジメント
+
学校組織マネジメント

“網養”スタイル

学びを「カタチ」に

地域から「社会」に

学び合い支え合う「組織」に

学校組織体の
マイナーチェンジ

学校力の向上
学びと成長の保障

【フットワーク】

□学びを「カタチ」にする

- ・学校教育目標と教育課程を磨き上げる

- ◇学びや地域の社会資源を結び、活かす教育
- ・教科別指導の適切な実施・検証サイクル
- ・「個別の指導計画」の活用方法の再検討
- ・学びの履歴、系統性、連続性

■学校教育目標の見直し

■旅行・集団宿泊行事 & 校外学習及び教科等の関連
「教育課程上の位置付けを明確化する」

○12年間をワンパッケージングで考える

学びの一体化、系統性を踏まえた目標や活動内容の設定、各教科・領域の関連性“泊学習の見直し”

■授業時数、学校行事の見直し

■児童生徒個別の教育課程の検討場面の充実

■教育課程編成・管理、指導者体制一元化

【学びの系統性と連続性、教科等横断的な視点】

“ヨコ軸とタテ軸”“布石を打つ”、“変化のある繰り返し”“乗り入れ授業やグループ学習”の工夫
「ふるさと教育（北海道、オホーツクの歴史・自然・文化）SDGs 健康/環境/防災/情報/人権教育 パラスポーツ 国際理解 児童生徒会活動 食育」等
■ユネスコスクールへの登録を目指す

【ネットワーク】

□地域から「社会」に発信、貢献する

- ・一人ひとりの可能性を伸ばす新たな教育実践

- ◇防災意識の醸成、校務の情報化推進
- ・効果的な ICT 活用の蓄積（授業 & 分掌業務等）
- ・1日防災学校の充実、危機対応「リスクマネジメント & クライシスマネジメント」の見直し
- ・キャリア教育の再評価

■本校における防災教育 & 情報発信

○1日防災学校、避難訓練を軸にした年間指導計画作成及び授業実践（単元計画作成）

○Google クラウド等での ICT 活用促進

・学校情報発信の差別化、ペーパーレス化

・ICT 授業実践の共有化、生成 AI 活用検討

○連絡帳の在り方検討（廃止、発展的解消策）

○キャリア教育全体計画の見直しとキャリアパスポートの活用検討等

【防災教育の視点】避難訓練 + α の取組

- ・災害発生時における「情報理解・意思表示」「危険回避行動」「避難行動」「生命維持」「非日常コントロール」等について年間指導計画作成 & 授業実践

【校務情報化の視点】

- ・授業実践、教材等の情報共有
- ・学年、学級事務の見直し、家庭・地域への情報発信

【チームワーク】

□学び合い支え合う「組織」に深化する

- ・専門職としての資質能力を高める

- ◇「組織体制」の充実と「授業改善」の推進
- ・職員研修、学校研究を通した「授業力の向上」「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化
- ・学校組織やシステムの改善検討

■次期学習指導要領の改訂に向けた基礎環境整備から
新たな学校構想へ

「学校組織体のアップデート～空き時間をつくろう～」

「業務効率化と計画的な人材育成」

○各分掌組織や委員会組織の形態、業務内容や手順等の改善

○学部主事・学級担任の業務検討、担任制の見直し検討（教科担任・全校担当・副担任・副部長制導入検討）、特別支援コーディネーター再編、地域連携コーディネーター新設、生徒指導機能の充実等

○新たな学校研究、教職員の力量形成

〈視点〉特別支援教育に関する基本方針、教員育成指標、学校課題・授業力を踏まえた学校研究テーマの設定

「できること、できる範囲で、コツコツと」

皆さん一人ひとりの力を貸してください。

チーム網養として一致団結していきましょう！